

南阿蘇村 復興むらづくりだより

～あれから6年
6集落のいまを刻む～



地震被害の大きかった各地域では、住民の皆さんが復興とさらに地域をより良くしていくための活動に奮闘されています。「南阿蘇村復興むらづくりだより」の中で6地区のいまと「集落復興支援事業」の活動などについて紹介していきます。

■立野地域のいま

主な地震被害…各神社や公民館・山腹崩落・道路・橋梁・上水道など

集落住宅…地震前：347世帯→地震後：全半壊263世帯→現在：272世帯（令和4年3月現在）

立野地域は、JRや南阿蘇鉄道、国道57号などがあり、交通インフラの要で観光の起点となる阿蘇の玄関口です。

しかし、熊本地震により、住宅被害はもとより阿蘇大橋をはじめとした交通インフラの被災による村中心部との断絶、水道の長期断水、山腹崩壊などにより安全性が確保されていないことで、一年間の長期避難世帯の認定を受けるなどの甚大な被害を受けました。

このようななか、国・県の支援を受けながら、平成29年8月27日の阿蘇長陽大橋応急復旧を皮切りに、国道57号現道部やJR豊肥本線（立野駅）の再開、令和3年3月には新阿蘇大橋の開通など、幹線復旧とともに、地域内でも道路や水道施設の復旧、砂防・治山による山腹保全、災害公営住宅の建設など、生活の再建に向けた動きが加速されました。

また、集落再生・活性化の事業として平成30年に「フットパスを活用した地域力向上事業」（立野わかもん会）が発足。その他、地震前におこなわれていた、どんどやの復活や地域住民との秋祭りの再開など、これまでの地域の絆を守るような活動とともに、新たな活動として、地震からの復興が進む被災地を歩き、地域の魅力を発信する「フットパス」や、立野地域合同での夏祭りの開催など、これまでになかった新しい取り組みにもチャレンジしています。

今夏には、立野ダム工事事務所や阿蘇砂防事務所、九州電力㈱や熊本大学の協力で、防災・減災をテーマにした「たての夏祭り+サイエンスカフェ」が下記の内容で実施する予定となっています。立野小学校を中心に今後も立野地域で賑やかな声が響き渡りそうです。

お知らせ

「たての夏祭り+サイエンスカフェ」

日時／8月20日（土）午後2時～8時

会場／立野小学校内の教室とグラウンド

駐車場約50台・小雨開催

出店予定：たこ焼き、やきそばなど その他：抽選会

【サイエンスカフェ】顕微鏡でのぞくミクロの世界

ー白川の砂が語る阿蘇ー熊本のひみつ

イベントの詳細や開催の有無などは「立野わかもん会」のInstagramで確認できます



Instagram
立野わかもん会



①再建された神社と秋祭りの様子 ②立野わかもん会を中心とした地域のワークショップ ③被災地の復興の様子を見て歩くフットパス